



来年度に向けた大東小の準備

副校長 後藤 京子

正門脇の梅のつぼみも少しずつ膨らみ始め、春の訪れを感じます。1月は「行く」、2月は「逃げる」、3月は「去る」、とよく言われますが、3学期が始まって、早1か月がたちました。大東小では、来年度の「大東の教育」の準備に入っています。4月から新しい学習指導要領が全面実施されます。変化の激しい時代に、豊かな創造性を備え、社会の創り手となることが期待されている子供たちが本当に幸せになるための教育はどうあるべきか、どんな力を付けていくべきかを全教員で話し合い、その教育の実現に向けて教員も勉強しています。

子供たちが大人になる頃は、身に付けてきた知識・技能を活用して、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力を発揮しなければならない時代だと言われています。

このような社会に生きる子供たちが幸せな人生を送れるようにするためには、「知識、技能」「思考力、判断力、表現力」をどのように働かせていくかを決定付ける重要な要素である「学びに向かう力、人間性等」という、情意や態度に関わるものが必要であると考えます。主体的に学習に取り組む態度、自分の感性や行動を統制する力、メタ認知という「自分自身の力」と、もう一つは互いのよさを生かして協働する力やリーダーシップやチームワーク、優しさや思いやりなどの他者へ働きかける力、つまり、「人間性に関する力」を身に付けることが重要です。

大東小学校では、次の3つのことを重点に令和2年度の教育課程を編成していきます。

一つ目は、自分の考えを友達に伝えたり、友達の考えを聞いたりしながら新しい考えを生み出すような対話の時間を増やすことです。

二つ目は、「特別な教科 道徳」を中心に、全教育活動を通して、他人を思いやる豊かな人間性を育むための取り組みです。

三つ目は、地域社会と連携した教育活動の推進です。今年度もたくさんの地域の方々に支えていただきました。子供たちが支えていただいていることに感謝しながら自分もまた、他者を支え得る誰かになれるように、そして、それを誇りにして多様な人たちと協力し、自分をしっかりもって生きられるようにと願っています。多様な他者と出会える機会を増やすべく来年度の教育のカリキュラムを創っていきたいと考えます。

保護者の皆様、地域の皆様、どうぞ子供たちの未来と一緒に考え、ぜひ、お力をお貸しください。